

命を守る分散避難

防災・減災研究センター2周年記念オープンディスカッション

『相乗型豪雨災害』防災のネクストステップで何に取り組む？

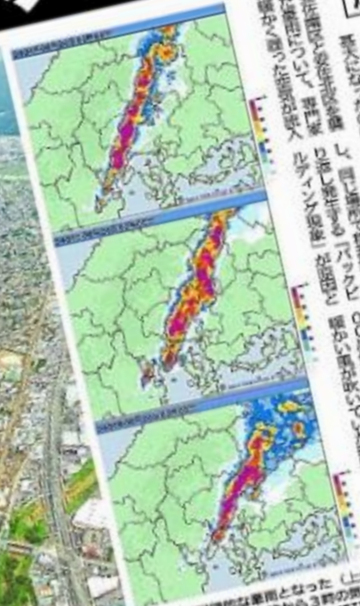
2020年12月16日@広島大学

中国新聞社
園部貴之

積乱雲次々に発生



山裾に広がる住宅地に土石流が流れ込んだ広島市安佐南区八木地区周辺＝20日午後2時30分（撮影・天高智博）



広島市で記録的な豪雨となった（上）20日午前1時から3時の間の現象。レーダー画像。南西から北東に延びる雨状の雨域が広島市付近にかかっている（気象庁提供）

広島土砂災害

広島市安佐南区八木地区で20日午後2時30分ごろ、記録的な豪雨にともなう土石流が発生。約1000立方メートルの土石が流れ込み、約100世帯の住宅に被害を及ぼした。死者39人、行方不明7人、負傷者1人、家屋全壊約100棟、半壊約100棟、倒壊約100棟、浸水約100棟、家財被害約100億円と推定されている。

広島土砂災害39人死亡



未明の豪雨 土石流

安佐南・安佐北7人不明

1時間130ミリ



広島市安佐南区八木地区で20日午後2時30分ごろ、記録的な豪雨にともなう土石流が発生。約1000立方メートルの土石が流れ込み、約100世帯の住宅に被害を及ぼした。死者39人、行方不明7人、負傷者1人、家屋全壊約100棟、半壊約100棟、倒壊約100棟、浸水約100棟、家財被害約100億円と推定されている。

積乱雲次々に発生



広島土砂災害

バックビルミ、
3時間雨量

広島土砂災害39人死亡



未明の豪雨土石流
安佐南・安佐北7人不明
1時間130ミリ

防災受信機サービスの提供

↑
防災行政無線を自宅で聞けるように

↑
屋外の防災スピーカーの音が聞き取れない

↑
激しい雨音と雷、閉め切った窓

防災受信機サービスの提供 2015年～

防災対策で日々の暮らしに安心を 中国新聞社の防災サービス

広島市の防災行政無線をご自宅に音声でお届け 防災受信機サービス

防災受信機サービスは、中国新聞社が広島市と「防災情報等の提供に関する協定」を締結し、中国新聞グループのケーブルテレビ2社のシステムを利用して、広島市の防災行政無線の音声をご自宅にお届けするものです。

特長
1

お部屋で聞けるから
聞き取りやすい

特長
2

音量を絞っていても
緊急時は自動で最大に

特長
3

乾電池併用で停電時は
もちろん持ち出しもOK



高さ21cm、幅15.5cm、奥行き5.2cm、
重さ0.5kg。壁掛けもできます。



土砂災害被災地・緑井上組町内会 防災受信機の利用開始

広島市が土砂災害や地震などの危険が迫った際に流す情報を自宅ですぐに中国新聞社の「防災受信機サービス」の利用が28日、昨夏の広島土砂災害で被災した安佐南区緑井上組町内会が始まった。町内会単位で導入を目指す

初の試み。利用者に2年間、モニターしてもらい、寄せられた感想をサービス向上に生かす。警備員の磯道賢さん(61)はリビングと寝室、聞こえるよう受信機を設置した。これまで屋外の防災スピーカー

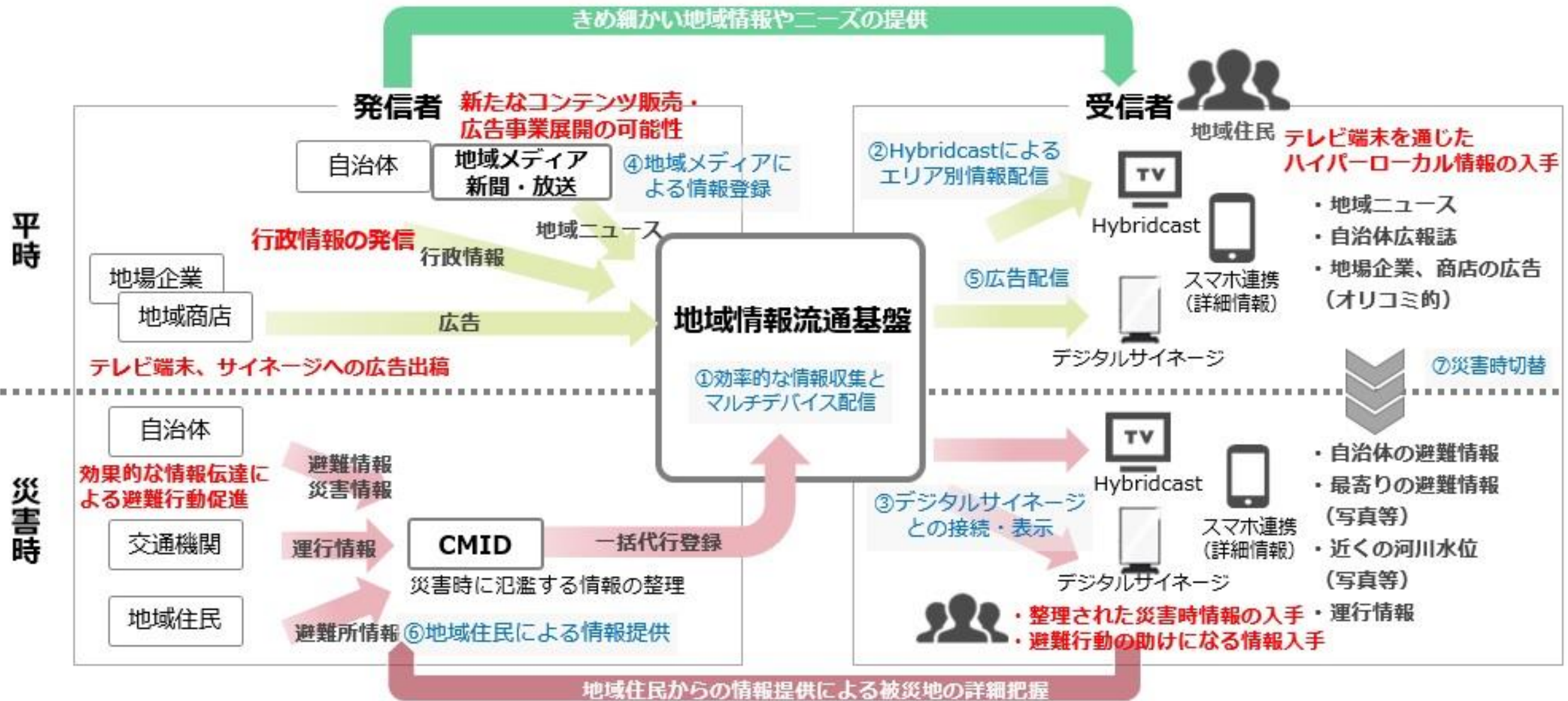
が自宅から遠くになり、避難指示やサイレンがよく聞こえなかったという。「夜間だけでなく、停電時も情報を知らせてくれるので安心です」と話した。同町内会には約480世帯が加入。今後、利用者を募り、希望家



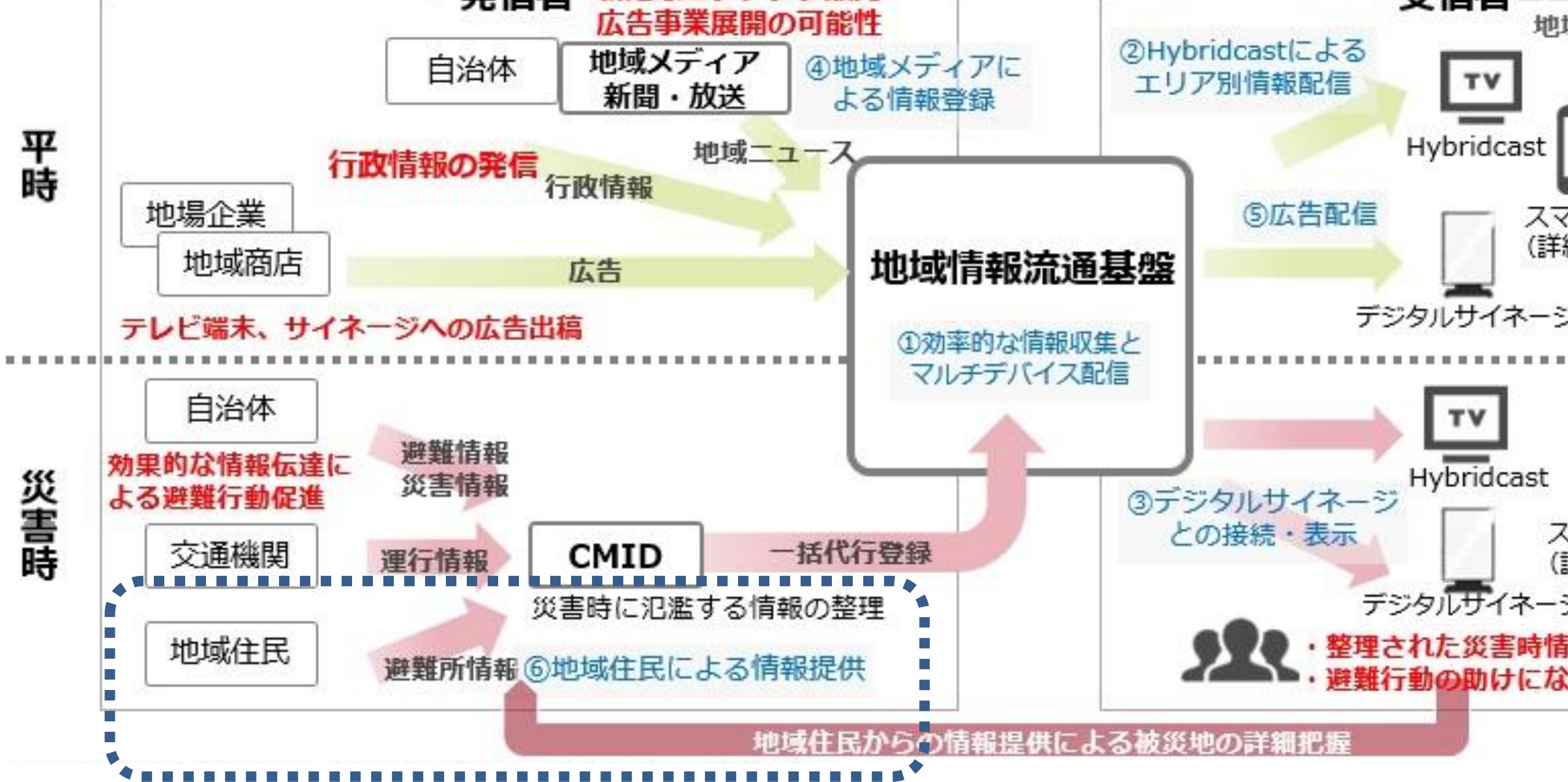
庭に順次、受信機を取り付ける。感想は中国新聞社が今後の運営に活用する。

リビングに置かれた受信機を操作する磯道さん

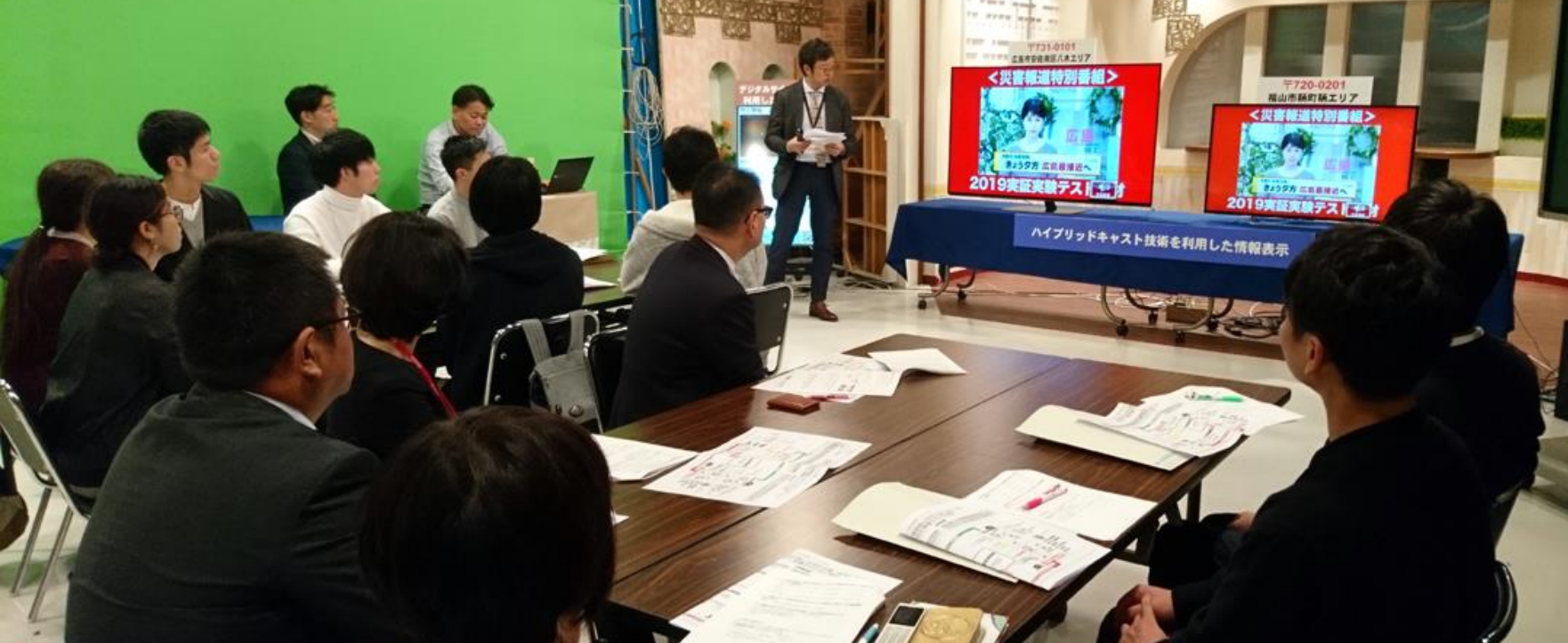
令和元年 総務省「放送と通信を連携したローカルコンテンツの配信及び災害情報の提供の在り方」に係る実証事業



青文字：課題・検証内容 / 赤文字：各ステークホルダーの裨益内容



住民による情報提供の可能性についても調査



実証実験

2019年11月7日

広島市内
公募した市民41人参加

20代 9人
30代 6人
40代 9人
50代 7人
60代 3人
70代 2人
無回答 5人



災害時において、地域住民からは、どのような情報が知りたいですか？（複数可）

評価・考察



地域住民からの自発的な情報発信の内容として、「道路の状況」や「近くの避難所の避難状況」等、報道機関からの詳細な情報発信が難しい分野への期待値が高かった。

個人によって発信された情報は、信頼性や、正確性が不十分な場合があることについてどのようにお考えですか？

評価・考察



災害時には約80%のモニターが何らかの信頼性担保を期待している。災害時という緊急事態における情報流通の運用ルールについては、別途検討が必要。

個人による情報発信について、その信頼性、正確性を担保する方法として、どのような方法があると思われますか？

評価・考察



情報の正確性については、「情報の発信元を明示した上で情報発信を行う」ことで、正確性の担保が可能との回答が最も多かった（56%が選択）。次いで、「複数の人が類似の情報を発信した場合に流れる」が多く（34%が選択）、複数の手法を組み合わせて情報発信の方法を検討する方向性についても検討を進めたい。

災害時において、みなさんは情報発信されますか？

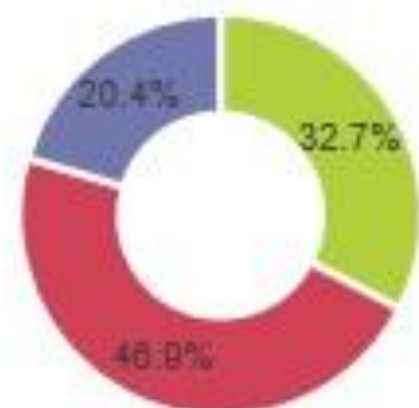
評価・考察



「発信しない」以外の選択肢を選択したのが全体の85%程度あり、仕組みを構築することで、地域住民からの情報発信は、可能と想定。

どのような情報が発信できると思いますか？

評価・考察

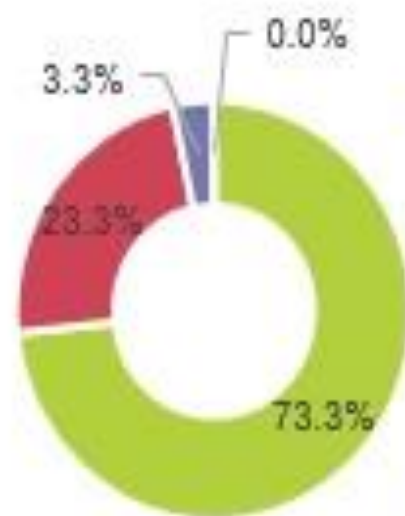


- テキストなら発信する
- 写真なら発信する
- 動画なら発信する

モニターごとによって区々だが、テキストや写真等の何かしらかの情報発信について、前向きな意見が寄せられた。

発信した情報について新聞社や放送局の報道に利用することについてどうお考えですか？

評価・考察

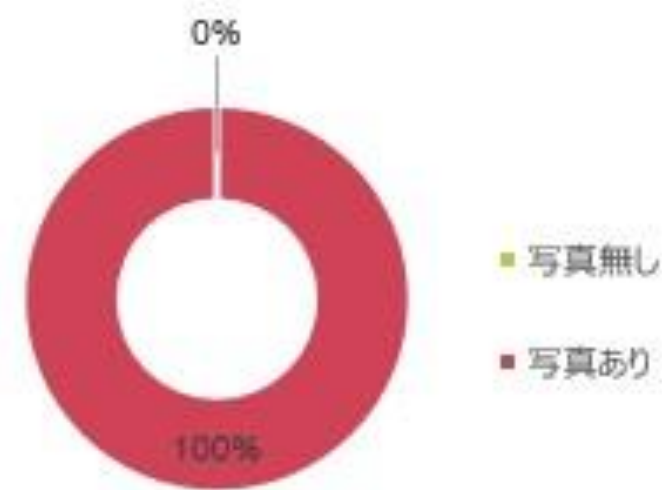


- 利用してもらって問題ない
- 事前に許諾を得て利用してほしい
- 情報料を支払ってくれるなら利用してよい
- 利用してほしくない

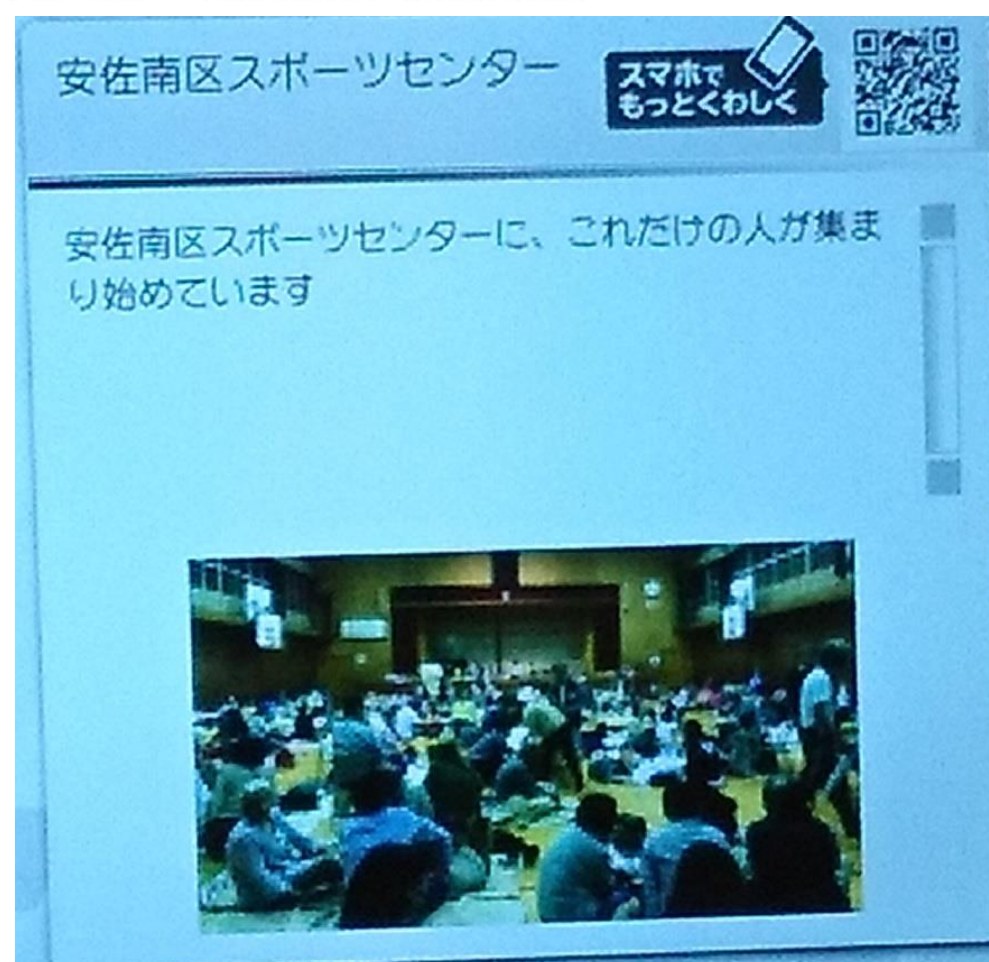
地域住民から発信された情報の報道への利用についても、前向きな意見が寄せられており、より詳細な情報を報道機関から発信できる可能性も高い。

避難行動を促進するのはどちらの画面だと思いますか？

評価・考察



静止画による災害状況の報道は、避難行動の促進に効果的であるとモニター全員が回答した。



【まとめ】避難促進と分散避難を進めるには

地域住民 ▶ 身の回り（地域）の情報を発信

- ・道路や交通状況
- ・近くの避難所の状況
- ・河川や山林の状況
など

写真・動画付き
高い効果



- ・避難行動の促進
- ・リアルタイムで状況判断
分散避難を促進

報道機関が2次利用

- ・より詳細な情報の発信

